

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091600215
法人名	社会福祉法人 三井福祉会
事業所名	グループホーム大城の里 (ユニット名 ひまわり)
所在地	福岡県久留米市北野町乙丸3番地13
自己評価作成日	平成29年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成29年6月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

耳納連山と筑後川の北側に位置し、施設の周りには四季折々の花が咲く田園の中に在り、そんな自然の中に囲まれながらも、西鉄電車甘木線大城駅が目の前にあり交通機関にも恵まれています。その自然環境の中で、グループホーム大城の里の理念である、「地域の中でその人らしく笑顔と笑い声のあふれる暖かい暮らし」を職員一同念頭に置き、利用者様お一人お一人が日々穏やかな生活が送って頂ける様努めています。又ご家族にも安心して頂ける様、利用者様の状況や状態を細目にお伝え致しています。看取りについても入居時に説明を行い、要望により主治医との連携を図りながら終末ケアを行っています。地域との交流も行いながら、利用者様が安心して暮らして頂ける様努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、西鉄甘木線の甘木駅前で交通機関の便利な住宅街に立地し、散歩時に電車が通ると利用者は手を振るなどして見送り、日々の楽しみの一つになっている。事業所は和風造りになっており、デイサービスが併設され、行事や訪問時には交流を深めている。事業所周辺に茄子やゴウヤ等の野菜を育て、グリーンカーテンとして日差しを和らげる役割と、食材としても取り入れている。職員は、事業所の理念を念頭に、利用者にとって事業所が自分たちの家となるように、楽しく、笑って暮らせるよう努めている。また、地域の避難場所としての役割を担っているわけではないが、独居高齢者が避難してきた事例もあり、地域密着型事業所として地域の方々との交流を深め、地域の様々なニーズに応え、これからも取り組みが期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の関わりを大切にしその人らしくを基本に、常に意識出来る様、施設内の色々な場所に理念を掲げている。会議の時には全員で唱和している。	法人全体の理念と事業所独自の理念を掲げ、「地域の中でその人らしく笑顔と笑い声のあふれる暖かい暮らし」をもとに職員は、利用者が笑顔でいられるように、自分たちが笑顔で分かりやすい声掛けで接するように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等にはご利用者と一緒に参加している。散歩時等には挨拶を交わしご近所の方々との交流を深めている。又地域の保育園児との交流会も行って、ご近所の酒蔵の蔵開きの案内を受け試飲等楽しまれている。	地域の缶拾いや神社の草取りに職員と利用者で参加している。回覧版や民生委員より、地域の祭りや、豚汁、餅つきの案内があり参加している。神社の祭りで輪ぐりに利用者が参加し、輪作りには職員が参加し準備をしている。老人会総会の時にグループホームについて説明を行っており、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の民生員さんに参加して頂き、施設行事等を地域の方々に紹介して貰い、参加を得られる様に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、市役所、包括、民生員、ご家族、ご利用者に参加して頂いている。色々な意見交換を行い、サービスの質の向上に繋げている。又ご利用者の状況、行事、事故報告等も行って頂いている。	奇数月の第三火曜日に市職員、包括支援センター職員、民生委員、利用者、家族代表の参加で開催し、利用者の暮らしぶりや行事などの報告を行っている。民生委員より地域の行事内容を具体的に案内してもらい、利用者に参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、施設の実情やサービスの取り組みについての説明を行っている。又他の施設の状況やご意見を頂いたり、その都度連絡や相談を行っている。。	運営推進会議の時に利用者についての相談をしたり、研修があれば参加したい意向があることを伝えたりしている。家族と連絡が取れず、どのようにしたらよいか相談したり、事故報告での報告内容の基準などを相談し、常に連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束く委員会を設置し5年を迎え、定期的に勉強会を行い、職員の意識を高め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日常生活においては、玄関より中庭へ自由に散歩出来る様になっている。	身体拘束委員会を設けており、議題を決めて勉強会も行われている。玄関の施錠は夜間帯のみで、日中は施錠せず、自由に出入りできる。職員は利用者の行動について制限しないように心掛け、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会活動や研修などに参加し、勉強会などで発表出来る機会を設けている。毎年アンケートを行い職員の意識を高める事で、理解を深め施設内で虐待が見過ごされない様注意を払い防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修を通して、職員に制度を理解してもらえる様にしている。玄関にはパンフレットを設置し、入居時や家族会に説明している。必要に応じて個々に説明し、支援している。	職員は、法人内の勉強会に参加し学んでいる。権利擁護に関する制度の利用者はいないが、利用者や家族が必要な時に安心して制度が利用できるようパンフレットを設置している。利用者、家族には入居時に管理者より説明している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定については、その都度説明を行っている。又ご家族や御利用者には不安が無い様、十分な説明を行い理解を頂ける様に努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中でご利用者との会話やコミュニケーション等で思いを汲み取れる様努めている。又面会時等いつでもご希望や要望などを伺い生活に反映できる様にしている。家族会においても自由に意見交換できる様機会を設けている。	家族会の時に家族だけで話し合えるようにしており、家族からの要望や提案があれば、家族会会長から意見をうかがっている。職員の入れ替わりがあった場合は、職員の顔写真と名前が分かるようにして欲しいとの要望があったため改善している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日行うミーティング時に意見や提案を出し合い、ケアワーカー会議で議論できる機会を設けている。又運営会議や業務改善会議等で話し合いを行い反映している。	職員は、管理者とも話しやすい環境にあり、提案や相談も随時行っている。ミーティングや会議において意見交換を行ったり、日々の介護場面でも気づいたことは職員全員で共有し、業務に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績などについては、定期的に自己評価して状況は把握出来ている。資格取得の為、職免で研修に参加できる体制を整えている。又各自向上心を持って働ける職場作りに努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集採用については、子育て支援も行っている。年齢や性別によって採用対象から外す事は無い。又職員の色々な気付きを大切にし、能力が発揮できる様職場内の環境整備に努めている。	職員の採用に当たり、性別や年齢制限はなく、20歳代から60歳代までの職員が勤務している。希望の休みや勤務交代も取りやすく、働きやすい職場である。また、法人が持つ事業所が多いため、家庭環境が変わっても離職ではなく異動を考慮できる環境にあり安心である。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会や研修などに参加し、一人一人の人権を尊重し、自己決定出来る様支援している。その人らしくを基本に、ご本人の思いを大切にしている。	年に1回法人内での研修に参加している。職員一人ひとりの気づきが違うため、職員の気づくところや活かせるところを大切に、利用者の思いをくみ取りながら接するよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修、グループホーム全体での勉強会や委員会活動を行い、職員の質の向上に努めている。又施設外の研修においては、職員の経験等に合わせて参加を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の委員会や合同勉強会に各事業所より参加し、情報交換や交流する機会を設けている。グループホーム部会や外部の研修にも参加し、交流を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人、ご家族の要望や不安な事などを聞き安心して生活が送れる様に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時や入居前の面接時にご家族が困ってある事、不安な事を十分に聞き関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居初期においては、ご本人、ご家族にとって必要と思われる支援を提供している。又より良いサービスが選択できる様他のサービス利用の対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人とのコミュニケーションを図り、能力や希望に沿った家事活動や学習、菜園等を共に行い寄り添った関係を築ける様にしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、ご本人の生活について報告をしている。状況に応じてその都度ご家族へ連絡、報告し、詳細については2カ月毎に状況報告を送付し、ご家族と共に支える関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事や散歩時等で挨拶や会話を楽しんだり、ご本人やご家族の方に尋ねて馴染みの人や場所との関係が途切れない様支援に努めている。	今まで行っていた美容室に家族が送迎したり、知人が事業所に訪問してきて会話を楽しんだりしている。馴染みの場所や人との関係が途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互い良い関係が持てる様、ご利用者それぞれの性格や状態を把握し、レクリエーションや家事活動等でご利用者同士が楽しく生活して頂ける様支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人やご家族の要望があれば、サービス終了後も必要に応じて、意向を聞きながら相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動から思いを汲み取り把握に努めている。毎日のミーティング時やケア会議等で検討し本人本位に努めている。	思いの表出が困難な利用者に対しても表情や行動など観察する中で、意向の把握に努めている。また、集団では話されない方も居室で1対1であれば話してくれることもあり、その時間を大切にしている。まずは、一人ひとりの意向等を尊重し、家族や主治医、他スタッフの情報とも照らし合わせ、利用者本位で検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接や、支援を受けてきた施設や事業所から、生活歴やサービス利用の経緯などの情報を得たりして把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定や一人ひとりの状態気付き等を日誌やミーティング時に職員間で情報の共有を図り把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来る事や、難しくなって来ている事など日々の気付きを、ミーティングやケア会議、ユニット会議時に検討し、ご本人ご家族の意向に添える様介護計画に反映し、作成に努めている。	職員1人に対し2名の利用者担当制を取っており、担当者は毎月ケアプランと利用者の状況にズレがないか評価している。その際ケアマネジャーへ状況を伝え、変更が必要な場合は家族や主治医の意見等を聞き、現状に即したケアプランに変更している。また、6ヶ月ごとにプランの見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々取り組んでいるリハビリや、アクティビティなどをケアチェック表やケース記録に記入すると共に、申し送りや会議などで情報を共有し、円滑なケアに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われない、ニーズに応じた柔軟なサービスが出来る様、ご家族が何時でも泊まれる様にしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での季節行事に積極的に参加し、交流を深め安全で豊かな生活が行える様支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望によるかかりつけ医との連携を密に保ち、毎日のバイタル測定や受診ノートなどの情報を共有し適切な受診が出来ている。	月に2回内科協力医の往診があり、定期的に状態把握ができています。精神科や歯科についても適宜往診を受けています。他科への受診は家族が同行しており、受診ノートとして事業所内での様子や、最近の身体状態を記載し情報提供している。医師からも受診結果記載があり、検査に異常があった場合は電話での報告もあり、適切な医療への支援をしています。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタル測定や気付き等を共有し、異常時は報告相談を行い、適切な受診、看護が受けられる様にしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先との情報の交換及び共有を行い、カンファレンスに参加し、早期退院に向けての連携を図り支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについての説明を行い、重度化や終末期の説明は医師の協力の下早い段階で行い、事業所にて出来る事をご理解頂きチームにて支援している。	家族の食事や宿泊場所の提供をしており、本人が望む家族との時間を十分に作ってもらえるよう配慮している。中には、看取りの方針が揺らぐ家族もおられるが、その際も主治医や関係者とも調整の上で、できる限り意向に沿うようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回消防署へ依頼し全職員が救命救急の講習を受け、実践に繋げることが出来る様努めている。又、毎年委員会や研修を設け、勉強会を行い、疑問点や不明点は適宜看護師に尋ね急変や事故発生時に備えている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	勉強会を行ったり、マニュアルを作成したりし災害時に備えている。又、毎年5月昼間、11月(消防署立合い)夜間想定で避難訓練を行い消火器の取り扱い等指導を受け確認している。地域の方にも参加して頂ける様、運営推進会議時に予定を伝え、報告をする等働きかけを行っている。	民生委員を介して、地域の方も参加しての防災訓練をしている。消防署の助言をもとに、避難誘導が速やかに行えるよう在室か否かプレートで明確にできる工夫をしている。職員がすぐ手に取れる所にマニュアルもあり、2週間分の食料や自家発電機の準備がある。避難経路の確保はあるが、避難口の掃き出し窓には2段の低い階段がある。	有事に備え、避難口がスムーズに、かつ安全に誘導ができるよう、今一度、検討の機会を持つことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生経験が豊富な先輩である事を念頭に置き、職員同士で言葉掛けや接し方を注意しながら、誇りやプライバシーを損ねない対応が出来る様心掛けている。	職員間で、利用者の話をする際は、周りに配慮しながら行っている。何度も繰り返し話をされる場合でも、職員はしっかり話を聞いて、利用者に寄り添いながら対応している。利用者の個人記録は書棚に保管しており、写真や掲示物等には家族の承諾を得て、プライバシーの確保に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や表情、行動、家族からの情報を基に、ご本人の思いを汲み取り自己決定に繋げている。又、月1回常会で、様々な希望を聞いたり、小さなことでも選択肢を設ける等意見や希望が言いやすい環境作りに努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日何をして過ごしたいか希望を聞いたり、個々の性格を把握したりする事で、ご本人のペースで1日1日を楽しく穏やかに過ごして頂ける様支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気候にあった洋服を職員と一緒に選んだり、お化粧をされたりとその人らしい身だしなみやおしゃれを楽しめる様心掛けている。又、月1回の訪問理容では、好みの髪型が言える様に支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回行う常会にて、食べたい物を聞き、献立に取り入れている。また、ご利用者がもっている能力を活かし、職員と一緒に野菜の皮むきやつぎ分け、食器洗い、テーブル拭き等行っている。	月に1度、利用者全体で希望食の検討を行い、毎週水曜日に提供している。家庭菜園やグリーンカーテンを皆で育て収穫し、季節の実りも味わっている。誕生会では、誕生者のリクエストに応じた献立でお祝いしたり、ビュッフェスタイルの食事会をしたりして工夫している。また、外食へ出かけたり、外気浴を兼ねて庭で松花堂弁当を堪能したりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った量を提供し、食事量や水分の摂取量を毎食記録している。利用者様の状態に合わせて、刻み、ミキサー等で提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、しっかりと口腔ケアを行っている。お一人でのケアが難しい方には支援をしながら、全員口腔ケアを行っている。義歯は洗浄剤も使い、清潔を保っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のタイミングを把握し、できる事はご本人様にさせていただきながら、トイレの誘導を行っている。基本、日中は布パンツで対応しているが、状況に応じて紙パンツやパットを使用している。	利用開始前は終日オムツ使用の方も、徐々に排泄のタイミングや方法を検討することで日中は布パンツへ移行でき、夜のみハビリパンツを使用しオムツの使用が随分軽減している。夜間も日誌に一人一人の水分量や排泄時間のチェックシートを記載し、トイレやポータブルトイレへの誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食時、おやつ時の水分補給をしっかりとし、毎日午前中にヨーグルトを召し上がって頂いている。毎朝の体操で身体を動かしていただき、便秘予防に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行い、夜間の入浴も行っている。まだ入らないと言われたら無理強いせず、時間をおいて声掛けをしている。体調にも考慮し、バイタルのチェックも入浴前に行っている。	リフト浴もできる環境ではあるが、利用者の身体状況を見て若干の介助と見守りにて毎日全員入浴している。昼過ぎや夕食後の入浴希望者がほとんどで、浴室の空き時間の声掛けを行い順番で一人ひとり思いのままにゆったり入浴している。シャンプー等は事業所で準備しており、季節に応じて菖蒲湯などの取り組みがなされている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングの椅子やソファー、又は居室などで、利用者様の過ごしたい場所で過ごしていただいている。午睡を行う方、行わない方など、利用者様それぞれに合った生活をしていただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋や、日々の記録などでどのような薬なのかを理解し共有している。薬の変更時はしっかりと記録し、常に状態を把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者が好きな事や得意とされる事を、ご自分の役割に出来る様支援し、又それが楽しみへとつながるようご利用者同士のコミュニケーションを大切に、レクレーションなどにも参加して頂いている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間を通して外出行事を行っており、日常地域の中を散歩に出掛けるのとは違った雰囲気を感じて頂く事が出来る様努めている。	定期的な外出支援では、花の時期に合わせて出かけ四季を感じている。近くの神社へはよく出かけ散歩コースとなっている。事業所の横を甘木鉄道が走り、踏切もあるが、電車が通過する時に、手を振ったり見送ったりするのが日常の楽しみになっている。駅長や隣の酒造会社などの協力も得ながら安全配慮ができています。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物が難しいご利用者は、楽しんで頂ける様選んで頂く支援を行っている。又ご自分で買い物が出来るご利用者は、必要な物を変える様、職員と一緒に掛支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状、お礼状等やり取りが出来る様支援している。又電話の希望があれば、電話をかけお話し出来る様支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が落ち着き、かつ楽しんで頂ける為居心地良く明るい空間である様、ご利用者と一緒に作成した作品や、写真を飾ったり、季節の歌詞等を貼り快く口ずさんで頂ける様努めている。又施設内の花壇などの花を飾っている。	事業所全体が明るく、空調管理も快適である。台所・食堂兼リビングは掃き出しのガラス戸になっており、外の景色を望むことができる。台所からの調理する匂いや音があり、生活感が漂っている。利用者がいつでもくつろげる様に畳の間にソファが設置され、居心地よい共有空間になっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファや椅子テーブルなどを設置し、それぞれにお好きな様に自由に過ごせるよう支援している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が居心地良く生活して頂ける様、居室には使い慣れた物を持参して頂き、ご家族の写真などを飾られたりして楽しませている。	居室は、介護用ベットとクローゼット、防災カーテンが備え付けられており、どの部屋も明るくゆったりとしている。利用者は思い思いの品を持ち込み個性豊かな居室となっている。また、仏壇やお位牌をもって来ている方には、朝の一番茶を提供する等、利用者の気持ちにも寄り添っている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	下肢筋力を維持するための運動、廊下や屋内での歩行訓練を行っている。又ご利用者様其々が分かれられたり出来る事が維持出来る様、表示したり声掛け等を行い支援している。		